

# 景況レポート

(10月分・情報連絡員80名)

## 景況DI値は3ヶ月ぶりに改善

～一部の業界では人材確保が課題～

### 【概況(全体)】

前年同月との比較による10月の県内景況は、景況が「好転」したとする業種割合が20.0%、「悪化」業種割合が27.5%で、業界全体のDI値は-7.5と前月調査と比較して16.3ポイント上回り、3ヶ月ぶりに改善した。

業種別に見ると、製造業全体のDI値は12.5と平成25年10月以来2年ぶりのプラスとなり、非製造業全体では-20.8と前月を12.6ポイント上回り、3ヶ月ぶりに改善した。

また、全国や北海道・東北ブロックと比較すると、本県は製造業のDI値が大幅に上回っており、これは、繊維製品や鉄鋼・金属が前月に引き続き好調に推移したほか、食料品や漆器等が好転するなど悪化割合が縮小した結果、製造業のDI値が大幅に改善し、業界全体のDI値を押し上げた。

### 【業種別の状況】

本会が調査する県内15業種のうち、前月比でDI値が改善したのは食料品製造業、建設業など7業種で、味噌醤油や清酒製造、米飯給食が前年同月比「好転」で推移した。

また、卸売業(青果)では県内産野菜の収穫等により入荷量が回復し、小売業(クレジット)では冬期に備えた家電製品の購買等により取扱高が増加した。

一方、木材・木製品や生コンクリート、建設業(一般土木工事)等では、需要の減退により業況が低調に推移した。

なお、依然として公共工事の発注をはじめとする需要の低迷や個人消費の減退が懸念材料となっているほか、人材確保が深刻な課題となっている業界も多いため、今後の動向を慎重に見極めていく必要がある。

### ＜全国の景況DIとの比較＞

	秋田県	全国	東北・北海道
全体	-7.5	-21.2	-15.8
製造業	12.5	-23.0	-13.2
非製造業	-20.8	-19.7	-17.3

### ＜景況天気図＞

項目	業界の景況	売上高	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製造業						
非製造業						

【凡例】

快晴 30以上	晴れ 10以上 30未満	曇り △10以上 △30未満	雨 △30以上 △10未満	雷雨 △30以下

【天気図の見方】

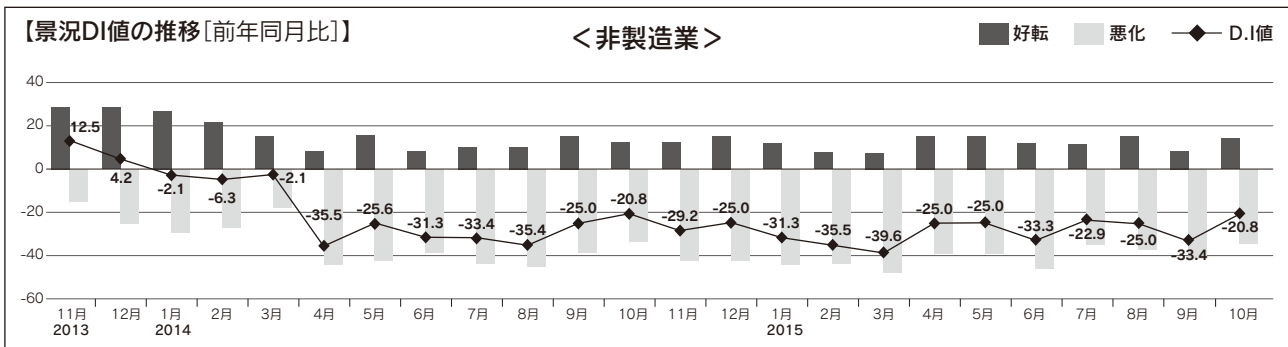
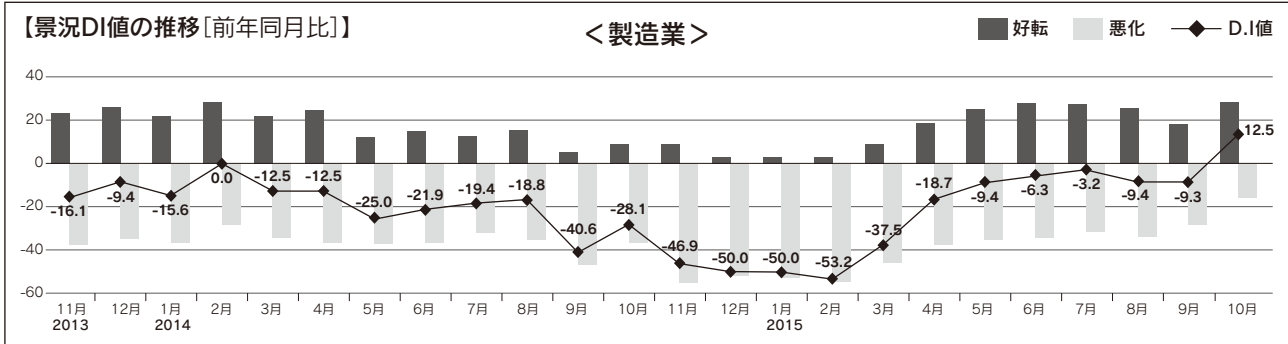
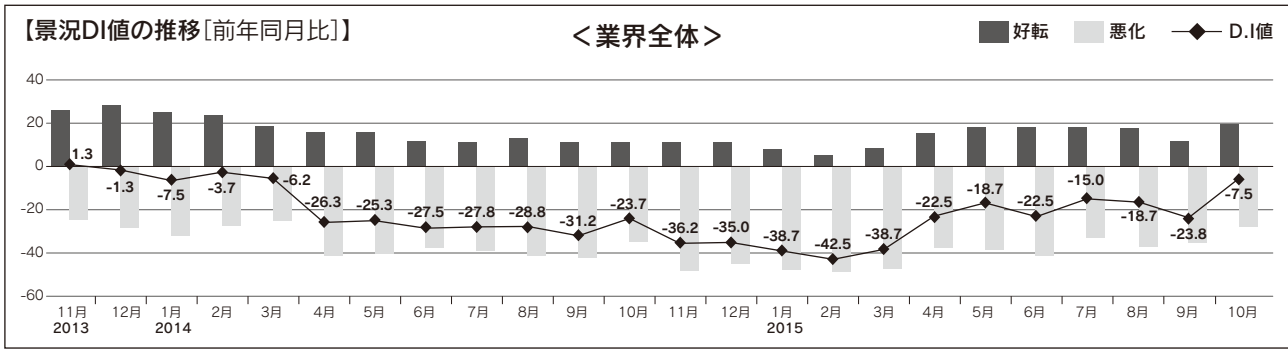
前年同月比のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

### 【業界の声】 ～製造業～

(回答数：32名 回答率：100%)

食料品 (清酒製造)	吟醸酒や純米酒が好調に推移しており、9月の清酒出荷量は、2,041,518ℓで前年同月比104.5%で推移した。また、積極的に輸出に取り組み、出荷を伸ばしている企業もある。
食料品 (パン)	10月は、連休明けにスーパーやコンビニ等におけるパンの売上が落ち込み苦戦した。なお、定年退職に伴う人員確保が迅速にいかず、全体的に人員不足の状況となっており、業務縮小を余儀なくされている企業もある。
繊維工業 (ニット)	例年10月～11月にかけて閑散期となるが、今月の受注量は前年同月を上回っており、春物の商談も順調に進んでいる。なお、人材確保及び加工賃の交渉が今後の課題となっている。
木材・木製品 (一般製材)	県内の製材需要は、公共物件が多く一般物件は低調に推移しており、景気が停滞している感がある。(県南地区)
木材・木製品 (プレカット)	10月は、幼稚園や保育所等からの受注により前年並みの受注量を確保できた。なお、住宅関連については消費税増税前の駆け込み需要による反動減が続いている感がある。
印刷	東北全体で消費の低迷が続いており、大手企業では売上等が上昇している一方、中小企業は非常に厳しい状況である。(中央地区)
窯業・土石製品 (生コンクリート)	10月の出荷数量は、前年同月比88.6%となる見通し。また、今年度の需要を地区毎に想定した結果は、674,000㎡(前年度実績比86.9%)と非常に厳しい数値となっている。
鉄鋼・金属 (機械金属)	各社とも当面の仕事を確保できており、工場の稼働率も高い状況で推移している。
一般機器 (金属加工)	10月の売上は、先月に続き前年同月を下回る結果となり、先行きは不透明である。また、取引条件も単価や納期の面で厳しい状況となっている。
その他の製造業 (漆器)	10月は、当組合の一大イベント「川連塗りフェア」が開催され、テレビ番組で川連漆器が取り上げられた反響が大きかったこともあり、前年同月比で売上、収益ともに好転した。



【業界の声】 ~非製造業~

(回答数：48名 回答率：100%)

卸 売 業 (青 果)	10月の売上は、前年同月比105.3%で推移した。豪雨被害に遭った県外産野菜の生産量も徐々に回復し、県内産野菜の入荷量も大幅に増加したため、価格は大幅落ち着いた。
卸 売 業 (米 麦 卸)	平成27年産米の集荷は、前年比80%と低迷しており、組合運営に影響が出ることを懸念している。また、輸送用トラックの確保にも苦慮している。
小 売 業 (クレジット)	10月の取扱高は、前年同月比で18%の増加となった。9月はプレミアム付き商品券の影響もあり前年実績を割り込んだが、10月は冬期に向け家電購入等の利用が増加した。(大館市)
小 売 業 (みやげ品)	10月は天候に恵まれ、地元客の出入りも多かったため、売上は前年同月比103%と3ヶ月連続で前年同月を上回った。なお、来月は低価格のツアーが多いため購買力低下と売上減少が懸念される。(仙北市)
商 店 街	業種により多少の違いはあるが、総体的に前年実績を確保するのが精一杯の状況が続いている。(秋田市)
サ ー ビ ス (旅館ホテル)	依然として個人客の動きは鈍く、団体ツアー客についてもバス料金の値上げ等により首都圏等遠方からの誘客に苦戦したため、売上、収益とも前年同月比で悪化した。(男鹿市)
サ ー ビ ス (一般建築)	国の公共事業の発注が低迷している中、橋梁等の維持工事の発注が増加した一方、一般土木工事等の発注が少ない状況であり、収益は前年同月比で悪化している。
建 設 業 (電気工事)	一般住宅建築が多少増加傾向にあるほか、学校をはじめとする公共物件や太陽光発電等の大型施設の導入工事も出始め、作業員の確保が難しい状況にある。(秋田市)
運 輸 業 (トラック)	輸送量は新米の出荷等もあり、ますますの状況で推移した。なお、ドライバー不足により増車できないため稼働率が上昇傾向にあるほか、軽油価格も安定しているため、前年同月比で収益状況は改善している。(中央地区)
その他の非製造業 (砂利採取)	公共工事発注の遅れ等により資材の動きが鈍く、生コンクリート用骨材の出荷が落ち込んでいる。なお、リサイクル材の荷動きは活発な一方、バージン材の在庫を豊富に抱える状況となっている。(県南地区)